

平成28年度 さいたま市立東岩槻小学校 自己評価書

さいたま市立東岩槻小学校

校長 野津吉宏 印

1 学校の教育活動について

(1) 学校の教育目標 「ともに伸びる子」 ・かしこく ・ゆたかに ・たくましく
～心豊かに生き生きと学び、ともに伸びようとする諏訪っ子の育成～

(2) 目指す学校像

①安全・安心で潤いのある学校 ②生き生きと学ぶ活力のある学校 ③豊かな心と身体を育てる人間関係
さわやかな学校 ④家庭、地域と共に歩む信頼される学校

(3) 重点・努力点

①基礎学力向上を目指した、学ぶ楽しさ・喜びが味わえる授業の実践 ②一人ひとりのよさを生かし、豊
かな人間性をはぐくむ教育の推進 ③心身ともに健康で、たくましい子を育てる教育の推進 ④安全・安
心で心豊かな学びを保障する教育環境の充実 ⑤組織的・機能的な特別支援教育の推進 ⑥家庭、地域、
関係諸機関との連携・協力による希望をはぐくむ教育の推進

2 教職員及び児童（生徒）、保護者等による評価結果

(1) 達成することができた項目

学校教育目標等 教育課程 生徒指導 進路指導・キャリア教育 学校安全 学校保健
特別支援教育 組織運営 研修 保護者、地域住民との連携 施設設備

(2) 達成することができなかった項目

教育課程「教育課程の編成・実施状況」 生徒指導「児童の状況」 進路指導・キャリア教育「進路指
導・キャリア教育」 学校安全「安全管理の状況」 組織運営「組織運営の状況」

(3) 児童（生徒）の学力・学習状況について（全国及び市独自の学力・学習状況調査結果を活用して）

成果としては、国語の「目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う」方法を身に付
けている児童が多い。また、「読むこと」を得意とする児童が特に中学年に多い。国語、算数ともに課題
が見られる項目が少なくないが、特に算数の活用においては大きな課題がある。

(4) 教育課程・学習指導について（各教科等の授業に関わる評価）

各教科・領域とも学習指導要領の内容を踏まえ、児童の発達段階に応じた指導を行うことができた。算
数科については、基礎的な学習内容の習得を図るため、個別指導やグループ別指導、習熟度別学習指導な
ど、個に応じた指導を一層充実させる必要がある。

3 次年度に向けた具体的な改善策

(1) 児童の基礎学力向上に向けた指導方法の改善を行う。

「学びのスタンダード化」と「ユニバーサルデザインの授業作り」を引き続き推進し、基礎学力の定着
並びにコミュニケーション能力の向上を図る。指導力の向上のため、全教員による「一人一研究授業」を
継続して実施する。自己の授業分析に生かすため、研究授業の際に「新 さいたま市の授業づくり」の「よ
い授業づくりチェックシート」を活用する。家庭と連携して学習習慣と規則正しい生活習慣を身に付けさ
せるために、「家庭学習カード」「いきいき生活カード」を一層活用する。朝学習の国語タイム及び算数タ
イムで、基礎学力定着プログラムの「ワークシート・課題克服シート」を積極的に活用し、基礎学力の向
上を図る。

(2) 児童の規範意識をはぐくみ、規律ある態度と信頼ある人間関係を構築する。

児童の道徳性を育成するために道徳教育の充実を図り、心の教育を推進するとともに、特別活動による実
践活動を通して思いやりの心を重視した人間関係を醸成する。特に、「すわっ子まつり」や「全校徒歩遠足」
等の異年齢集団活動の実践をさらに充実させ、児童同士のかかわり合いを深め、相互の信頼関係に基づいた
人間関係を構築できるようにする。また、規律ある態度を育成するために、「諏訪っ子10の約束」や「心
を潤す4つの言葉」の指導を徹底する。特に、あいさつの励行や時間を守ることにに対する意識を高め、清掃
活動を重点的に指導する。

(3) 個に応じた指導体制の整備・充実を行う。

きめ細かい教育の一層の推進を図るために、特別な支援を必要とする児童に対する個別指導や少人数指
導、SSルーム（特別支援教室）における個別指導を継続する。また、特別支援学級の交流及び共同学習を
積極的に推進し、特別支援学級の弾力的運用を含めて個に応じた教育の効果的な指導体制を充実させる。

平成28年度 さいたま市立東岩槻小学校 学校関係者評価書

さいたま市立東岩槻小学校

学校関係者評価委員長 小堀 久



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 8名(学校評議員を兼ねる)

(2) 実施回数 2回

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

○「児童のアンケート」から

- ・ 児童の満足度が非常に向上していることが素晴らしい。さらに児童をよりよく伸ばすことができるように、向上した原因を分析し、学校のよい取組を継続させたい。
- ・ ほとんどの項目が向上したのは、今年度だけでなく、教職員が継続して取り組んできた今までの努力が実を結んだ結果であろう。
- ・ 昨年度と比較して、ほとんどの項目が向上していたことから、教職員の相当の努力があったことが推察される。特に、「先生がほめてくれる」項目が21ポイントもアップしていることが素晴らしい。
- ・ 「青空タイムは楽しい」という項目が、昨年は達成が低かったが、今年度は向上できたことがよかった。
- ・ ほとんどの児童が学校生活(勉強・遊び)を楽しんでいるが、「学校に来るのは楽しい」に「あまり思わない・思わない」と回答した児童が15%いる。満足度の低い児童の改善が今後の課題である。
- ・ 「忘れ物をしない」項目に改善が見られないのが今後の課題である。

○「保護者アンケート」から

- ・ ほとんどの項目が90%以上達成しているのは、素晴らしい学校運営ができているからである。
- ・ 生活習慣や家庭のルールに関することの改善については、家庭の協力が必要である。

○「教職員の学校評価」から

- ・ 個人情報取扱いについて、課題が見られると回答した教職員が少数いるので、全員が達成できるように改善する必要がある。
- ・ 明確で具体的な組織の目標が設定されているので、達成度が高かったと思われる。
- ・ 「心を潤す4つの言葉」の定着が課題であるので、自らあいさつができる児童、正しい言葉遣いができる児童の育成を継続するとよい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・ 校内の学校評価委員会を活用して、児童の満足度を大きく向上させることができた原因と満足度が低かった項目の原因を分析し、効果的だった取組を継続させ、改善すべき点を改善していく。
- ・ 生活習慣や家庭のルールに関することの改善については、家庭と連携し、いきいき生活カードの取組を継続する。
- ・ 個人情報の取扱いについて、情報教育部を活用して、情報モラルの向上に関する研修を定期的に行う。
- ・ 「心を潤す4つの言葉」について、小・中連携によるあいさつ運動の継続や正しい言葉遣いに対する意識を高める学級指導を徹底する。

さいたま市立東岩槻小学校長 野津 吉宏



※ A4 1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。